

早稲田大学文学学術院と協定を締結



協定書を手にする倉光市長と柳澤学術院長

市と早稲田大学文学学術院は、「教育および研究活動の受け入れ」、「地域資源の発掘・活用」、「ひとづくり・人材育成」、「コミュニティ活動・まちづくり」の4分野において連携・協力に関する協定を締結しました。

同大学文化構想学部の西城戸誠教授のゼミでは、令和6年度から毎年市を訪れ、木造地区中心商店街のにぎわい創出に関する研究を行っています。今後は調査研究をさらに深めてもらうとともに、地域資源の磨き上げを進めていきます。

この日、協定締結式が行われ、柳澤明学術院長は「社会実践に取り組む学生や教員にとって、安定した基盤で活動できることは大変ありがたい」と話し、倉光市長は「私どものメリットは数限りなくあります。ゼミの学生の皆さんに対して万全の協力体制を整えていきたい」と話しました。

車力分屯基地に武井司令が着任

3月20日、航空自衛隊北部高射群第21高射隊長兼車力分屯基地司令に武井昇2等空佐が着任しました。

武井司令は福岡県出身。前任地は東京都・外務省のアジア大洋州局地域政策参事官室。車力分屯基地の第29代司令として隊員たちを指揮します。

この日、市役所を訪れた武井司令は「地域と協力し、共に新たな価値を創出する関係性を維持・発展できるように、引き続き緊密に連携していきたい」と意気込みを話し、倉光市長は「自衛隊、米軍、警察、市の連携を維持するとともに、地域と良好な関係を続けてください」と話しました。

離任した小林丈人1等空佐は、航空自衛隊幹部学校へ赴任しました。



倉光市長と握手を交わす武井司令(右)

青森県消防功労表彰を受賞



表彰状を手にする筒木坂女性防火クラブのメンバーたち

この日、市幼少年女性防火委員会の「筒木坂女性防火クラブ」が、長年にわたる防火・防災意識の普及啓発活動の功績が認められ、青森県消防功労表彰を受賞しました。

筒木坂女性防火クラブは、昭和60年の設立以来、地域に根ざした活動を続け、火災予防の呼びかけや防災意識の向上に積極的に取り組んできました。

さらに近年では、幼年消防クラブとの防火イベントの実施や、講習・研修を通じたスキル向上など、活動の幅を広げています。また、園児へのおもちゃ花火教室や高齢者世帯への住宅用火災警報器の設置支援など、地域に寄り添った住宅防火活動にも力を入れています。こうした日頃の継続的な活動が評価され、今回の受賞につながりました。

交通事故のないつがる市を目指して

4月6日から15日までの春の交通安全運動に合わせ、つがる市市民交通事故防止総決起大会が松の館で行われ、約200人の市民らが、交通事故のない社会の実現を誓いました。

大会では、つがる地区交通安全協会の片山徳明会長が「関係機関、団体との連携を強化し、全市民を対象とした幅広い交通安全運動を展開し、住みよいまちづくりを実現できるようお力添えをいただきたい」とあいさつ。

地元の園児たちは交通安全にちなんだ踊りを披露し、「交通ルールを守ります!」と誓いました。

アトラクションでは、県警察音楽隊による吹奏楽演奏やカラーガード隊の華麗な演技が大会を盛り上げました。



踊りを披露する園児たち

縄文遺跡の魅力を伝える ボランティアガイド始動



「頑張ろう」と意気込むガイドたち

今年も「つがる縄文遺跡案内人」によるボランティアガイドが始まりました。ガイドには16人が登録し、11月末までの期間、10時から15時まで案内所に複数人が常駐。タブレット端末などを使いながら、亀ヶ岡石器時代遺跡と田小屋野貝塚の案内を行います。

この日、出発式が行われ、山谷教育長は「ガイド解説は遺跡の価値を伝える大きな役割を担っており、案内人の皆さまは本市の縄文遺跡を背負って立つ存在です。引き続きご協力をお願いします」と激励。

ガイド3年目を迎える工藤里美さんは「全国各地から多くの方が訪れるので、分かりやすく楽しんでもらえるガイドをしたい」と意気込みを語りました。

早朝パレードで火災予防を呼びかけ

4月13日から19日までの7日間、「急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし」を全国統一標語に、春の火災予防運動が実施されました。

この運動は、火災が発生しやすい時期を迎えるに当たって、火災予防の思想普及、火災発生の防止を目的に毎年行われ、本市では初日に消防団員による火災予防パレード出動式が行われました。

出動式では、倉光市長が「消防団員の皆さんの姿を見て市民が安心・安全だと感じるような活動を続けてほしい」とあいさつ。続いて三浦孝純消防団長から訓示を受けた団員らは、一斉に消防車両に乗り込み、市内パトロールに出動しました。

春になり火災が増えています。火の取り扱いには十分注意しましょう。



出動式に臨む消防団員